

## V 特別活動

### 1 改訂の趣旨

#### (1) 成果と課題

これまでの特別活動の成果	更なる充実が期待される今後の課題
<ul style="list-style-type: none"><li>生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動としての機能。</li><li>協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤形成。</li><li>集団への所属感、連帯感を育み、ホームルーム文化、学校文化の醸成へとつなげるなど、各学校の特質ある教育活動を展開。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けるべき資質・能力の明確化。</li><li>資質・能力の向上につながる学習過程を重視。</li><li>教育課程全体における役割や機能の明確化。</li><li>内容や指導のプロセスの構造的な整理。</li></ul>

#### (2) 改訂の基本的な方向性

- ① 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を指導する上で重要な視点として整理し、特別活動において身に付けるべき資質・能力を明確化。 ⇒ **何ができるようになるか**
- ② 自治的な能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視するため、学習過程の重要性を明確にした内容構成に改善・充実。 ⇒ **何を学ぶか、どのように学ぶか**
- ③ 「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を改めて明確にし、特別活動を要とした小学校から高等学校までの教育活動全体のつながりを体系化。 ⇒ **教育活動をどのようにつなぐか**

### 2 改訂の要点

**何ができるようになるか** ～「集団活動」「実践的な活動」で育成する資質・能力～

#### (1) 目標の改善

- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成すべき資質・能力の三つの柱に沿って目標を整理。
- 特別活動の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育成。

||  
集団や社会の形成者としての「見方・考え方」

各教科・科目等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に向けた実践に結び付けること。

## (2) 特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することをめざす。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (知識・技能)
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (思考力・判断力・表現力等)
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

### ホームルーム活動

- ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組む。

### 生徒会活動

- 異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸課題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組む。

### 学校行事

- 全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。



**ここがポイント!**

特別活動の全体目標と各活動・学校行事の目標の関係を踏まえて指導計画を作成し、指導の充実を図る。

## 何を学ぶか

### ～特別活動の内容～

#### ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画 → **合意形成**
  - (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 → **意思決定**
  - (3) 一人ひとりのキャリア形成と自己実現 → **意思決定**
- ※ 入学から卒業までの発達の段階を踏まえた系統的な指導が求められる。

#### 生徒会活動

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
  - (2) 学校行事への協力
  - (3) ボランティア活動などの社会参画
- ※ 生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力の育成が求められる。

#### 学校行事

- (1) 儀式的行事      (2) 文化的行事
  - (3) 健康安全・体育的行事      (4) 旅行・集団宿泊的行事
  - (5) 勤労生産・奉仕的行事
- ※ 生徒が行事の意義を十分に理解した上で、自発的に参加し協力できるよう指導することが求められる。

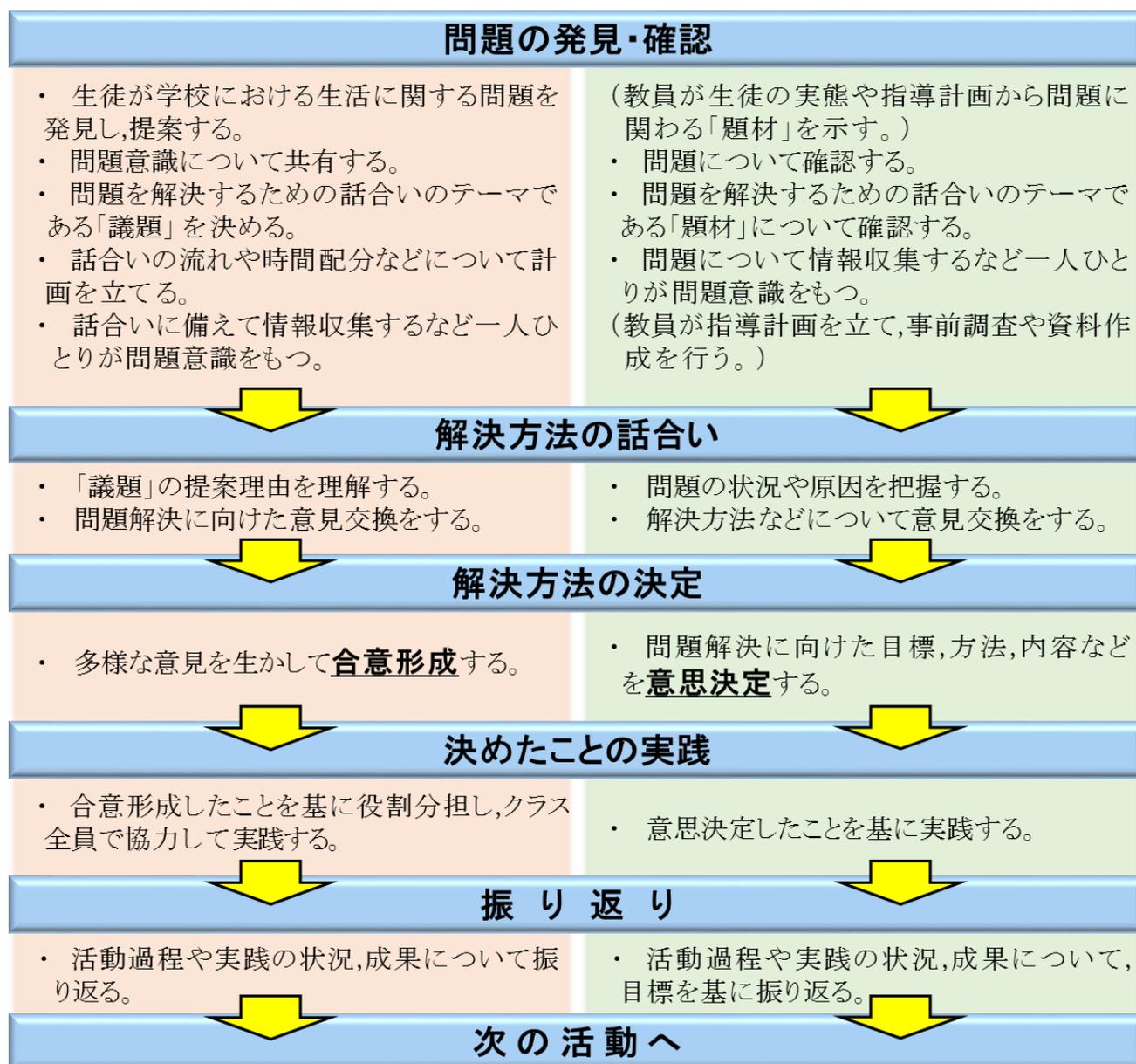
## どのように学ぶか

～ホームルーム活動における「話し合い活動」の充実に向けて～

- ホームルーム活動の内容については、「集団として学習活動を進める」ものと、「個人として学習活動を進める」ものに大きく分けられる。

集団として合意形成する  
自発的, 自治的な活動の形態

個人として意思決定する  
自主的, 実践的な活動の形態



### 指導のポイント

- 課題に対して,一人ひとりが自分なりの意見や意思をもった上で,合意形成に向けた話し合いに臨むようにする。 <集団としての合意形成>
- 合意形成に基づき実践するに当たって,自分自身に何ができるか,何をすべきかということを主体的に考えて,意思をもつようにする。 <個人としての意思決定>

## 教育活動をどのようにつなぐか

～特別活動を通して実践につなげる～

### (1) 各教科・科目とのつながり (例)

- 国語科：「言葉による見方・考え方」 → 合意形成するための話し合い活動で実践
- 芸術科：「音楽的な見方・考え方」 → 文化的行事で実践（文化祭、音楽鑑賞会など）

### (2) 道徳教育とのつながり

- 特別活動を通して、よりよい人間関係の形成、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道徳性の育成を図る。

### (3) 総合的な探究の時間とのつながり

- 総合的な探究の時間で学んだ内容が特別活動において生かされ、更に次の探究的な学習の問いにつながるなど、互いの特質を生かし合った関連を図る。

### (4) 生徒指導等とのつながり

- 所属する集団を、自分たちの力によって円滑に運営することを学ぶ。
- 集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ。
- 集団としての連帯感を高め、集団（社会）の形成者としてのよりよい態度や行動の在り方を学ぶ。

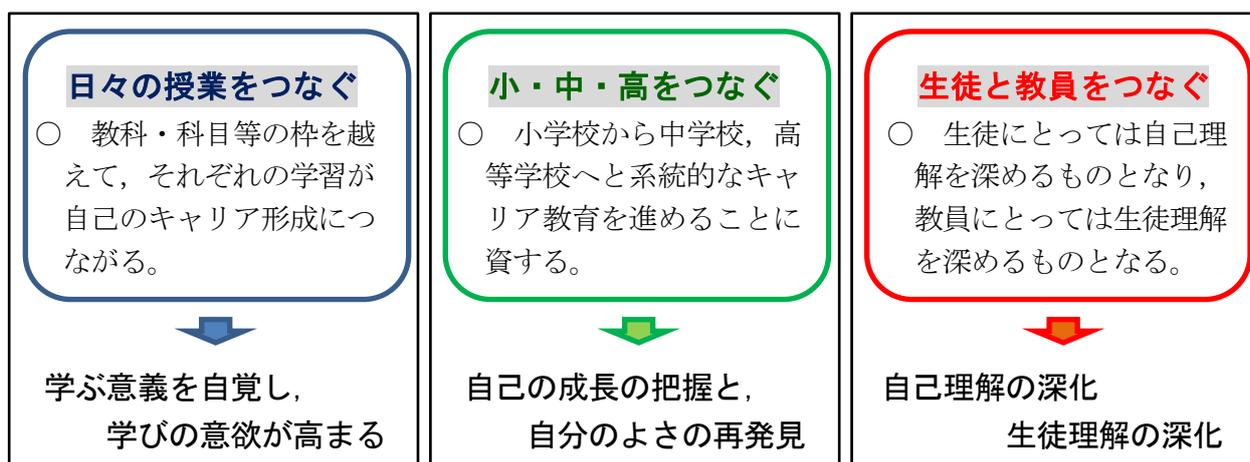
## 3 キャリア・パスポート



### (1) キャリア・パスポートの定義

- 児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ

### (2) キャリア・パスポートの三つの意義



### (3) キャリア・パスポートを活用する際の留意点

- 記録の活動のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視すること。
- 記録を活用してカウンセリングを行うなど、生徒理解や一人ひとりのキャリア形成に努めること。
- 小学校入学から高等学校卒業までの記録を引き継ぎ学びの振り返りや見通しに生かすこと。